

**三重県私費海外留学生体験記**  
**小林 華子さん (イギリス・ロンドン)**  
**Central Saint Martins 大学 テキスタイルデザイン学科**

**2018年10月更新**

**・専攻している科目の学習内容、成績について(難しいこと、熱中していること等)**

テキスタイルデザインの中でもニットを専攻している。業務用ニットマシンを使用して編んでおり、最初はマシンの使い方を習得するのに時間を要した。現在は、ニットで衣服などの立体作品を制作することに打ち込んでいる。糸の太さや質感などによって仕上がりがイメージと異なってくることが多く、試行錯誤が必要で難しいが、楽しみながら取り組んでいる。

**・生活状況について(困ったこと、日本の生活と特に異なる点等)**

最も苦労したのは家探しである。ロンドンは古い建物が多いため、値段と質が釣り合っていないように感じる事が多く、また良い物件はその場で即決しない限り、すぐになくなってしまったため、家が見つかるまでの3ヶ月間ほど様々な場所を短期滞在で転々とする事になってしまった。そのほか、食生活などは日本とは異なるものの不自由はない。

**・留学を経験して感じたこと、気付いたこと**

留学をして、ヨーロッパの他の国々もより身近な存在となったが、その中で教科書より学んだ歴史上の出来事がそれまでは点と点でしかなかったが、線となって繋がり把握できるようになってきたと感じる。また外から客観的に日本を見ることができるようになり、それまでは当たり前と思っていたことが実は世界のスタンダードではないということに気づかされたりもした。

**・卒業後の進路について**

まだ具体的な進路については迷っている段階である。三年間学んだテキスタイルの知識と留学前まで携わっていたビジネス面の知識の両方を使う形での進路を考えたいと思っている。また卒業後も、せっかく学んだ英語及び現在学習中のフランス語の向上に努めたいと考えている。

**・三重県私費海外留学生奨学金制度について**

このような制度を設けてくださったことに深く感謝している。学生の期間は、様々な経験をする時間はあるものの金銭面で苦労することが多い。しかしカリキュラムがみっちり詰まった海外留学において、アルバイト等をしながら学習することは非常に困難である。この制度のおかげで勉学に専念し、短期間でより多くのことを吸収できていると感じる。

**2017年11月更新**

**・専攻している科目の学習状況について**

プリント、ニット、織りの3技能を習得するテキスタイル・デザイン学科にて、1年度の前半

では各技能の基礎を学び、生地サンプル作成を行いました。講義は実技ベースとなっており、与えられた課題に沿ってアイデアノートとなるスケッチブックを作成する段階から始まります。各担当教員及び技術教員に随時相談し、アイデアを発展、作品となる生地サンプル提出までを2-3週間のスパンで繰り返しました。1年度の後半では、3技能のうち特に関心の強いプリント、ニットを専攻し、前半で習得した基礎技術をベースにさらに完成度の高いデザイン作りに取り組みました。

また、座学として週1回の文化学習の講義を受け、討論及びレポート作成を行っています。全て初歩からのスタートだったため、1年度前半には理解が追いつかず苦勞することも多かったですが、現在では入学当初には頭が回らなかった部分についても考慮に入れて制作ができるようになってきていると感じています。

**・ボランティアやアルバイトなど、どのような学業以外の活動をしていますか。**

課題提出までのスパンが短いため、学校のない土日やイースター休暇等も作品制作を続けていました。そのため、ボランティアやアルバイト等の活動は現時点で行うことができていません。

今後の計画は、来年度の夏休みを利用してインターンシップに参加したいと考えています。また、友人が行なっている在学中の大学へ入学希望の学生に向けたポートフォリオ作成の講義のボランティア活動にも関心を持っています。

**・三重県や日本の文化や習慣等について紹介する機会はありますか。**

三重県や日本の文化や習慣をメインテーマとして紹介する機会はないですが、作品制作のリサーチ段階において、馴染みのある日本文化を参照することは多いです。そのため、直接的にはないですが、担当教員や一部生徒の前で自分がリサーチを行った日本の美術館での展示内容や街の写真について説明する機会はあります。具体的には、長期休暇中に帰国した際に訪れた大阪府の万博記念公園の太陽の塔および万博記念博物館の展示内容について、リサーチの一部として説明を行ったことがあります。

**2016年10月更新**

**・あなたの留学の目的は何ですか。**

結果だけでなく、結果に至るまでの失敗を含めた過程を評価するイギリスで、柔軟な発想力と失敗を恐れずに挑戦する精神を養いたいです。物づくりにおいて、技術の習得を重視する日本ではなく、発想力の鍛錬を重視する海外でこそ学ぶことができると考えています。また、留学体験を通して多角的な視点および語学力を向上させ、グローバル化が急速に進む社会で土地を問わずビジネスを行い、国境をまたいで産業の発展および精神的かつ物質的豊かさの提供に貢献できるようになりたいです。

**・専攻している(する予定の)科目の学習内容について書いてください。**

私が入学予定のテキスタイルデザイン学科では、プリント・ニット・織りの主に三つの分野を習得します。授業では、デジタルかつ型にはまらないアプローチでテキスタイルデザインやトレンド予測を学び、作品を制作する。作品の形式は学生によって様々で、布地そ

のものを制作する学生もいれば、布地から衣服やインテリアへと発展させる学生もいます。最終作品はプレゼンテーションを行い、先生やクラスメイトと批判も交えたディスカッションを行います。その際には最終作品に至るまでに行ったりサーチやスケッチブックも同様に評価されるため、1 作品あたり数冊のスケッチブックを作成し提示する必要があります。

**・留学大学に入学するにあたり、どのような手続きやテストが必要でしたか。**

IELTS での規定スコア 6.0 獲得、英文で志望動機や経歴を記載したパーソナルステートメントの提出、ポートフォリオの作成および英語でのプレゼンテーションを行いました。ポートフォリオは、ドローイングおよびペインティングを数枚、テクスチャーに重点を置いた衣服を 3 着、衣服の最終形態に至るまでの試行錯誤をまとめたスケッチブックを数冊準備しました。初めて学習する分野で専門的な技術も持ち合わせていなかったため、作品のクオリティよりも、失敗を含めた実験的な試行を繰り返した過程を見せることに注力しました。

**・留学校を決めるにあたって利用した資料や機関はありますか。**

ポートフォリオ制作や IELTS 対策などを行うため、1 年間、海外芸術大学留学のための専門学校に所属して準備を進めました。芸術と英語の授業が半々で、パーソナルステートメントの添削やプレゼンテーションの練習も行いました。また、学校に海外の芸術大学から講師を招いて、ワークショップや学校紹介などを受けました。さらに、ポートフォリオ審査およびプレゼンテーション試験も学校で受けることができました。卒業生や先生から聞いた話や、SNS で調べた各大学の卒業制作展や授業風景の写真を参考に、留学校を定めました。

**・現在の留学校に決めた一番の理由は何ですか。**

ファッション分野で強いこと、コンセプトチュアルで型にはまらない教育方針、日本での知名度の高さが主な理由でした。有名デザイナーを輩出してきたファッション科がある学校で、意識が高くストイックな学生から刺激を受けて、テキスタイルを学ぶことができる環境に惹かれました。また、既存の美意識に疑問を投げかけ、新しい価値観を生み出していく教育方針が魅力的だと感じました。そして、卒業後は日本で働くことを視野に入れているため、日本での知名度が高いことも決め手となりました。

**・昨年度、あなたが関わった国際交流・貢献活動について教えてください(ボランティア活動など)。**

所属していた専門学校で英語のプレゼンテーションを学んだイギリス人講師との交流が印象に残っています。1 つの作品につき、英語と日本語の 2 回プレゼンテーションを行う機会がありましたが、作品の色合いやコンセプト、テーマから連想するものが日本人とは異なっていたり、微妙なニュアンスを伝えきれなかったり、文化の違いを実感することが多かったです。今まで見えていなかった物事のもう一面に気が付く機会でもあり、異文化を学ぶ意義を再確認することができました。